

小野寺秀和の像

祥並

わが世に

百年を

年を後く

世に

秀和の像



わが世に
百年を
年を後く
世に
秀和の像

小野寺秀和の妻阿方氏丹子之像

祥並



小野寺秀富像

小野寺秀富

長矩公不畜之儀之付早速在所赤穂馳参

母

母

母

母

母

母

三喜良興



小野寺十内秀和京都留守居役相勤作内

長矩公不畜之儀之付早速在所赤穂馳参

京都小野寺十兵衛(未巳四月七日之書状)

一 長矩公不畜之儀之付早速在所赤穂馳参
 一 京都小野寺十兵衛(未巳四月七日之書状)

一 一丁中より若干の地を

一 漢野を伴う及の後野を若干の地

一 元田を伴う及の後野を若干の地

一 元田を伴う及の後野を若干の地

可也法記の事

一 松平を伴う及の後野を若干の地

一 松平を伴う及の後野を若干の地

一 松平を伴う及の後野を若干の地

一 松平を伴う及の後野を若干の地

一 松平を伴う及の後野を若干の地

一 松平を伴う及の後野を若干の地

一 松平を伴う及の後野を若干の地

一 松平を伴う及の後野を若干の地

一 松平を伴う及の後野を若干の地

一 松平を伴う及の後野を若干の地

費る人たりの流る事と云ふは
人々の心持の可成る事と云ふは
在りては其の心持の可成る事
に等しく感心せしむる事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは

其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは
其の心持の可成る事と云ふは

さうりいふと天少をば笑たぐらぬ海お果ん
の母妻といはふ志は教ひまうせむ事す
は報すといふはまゝの世に然しふ家の若
たは又菟城して運と三宮ありて其天
守し昭夜原を主政たぐらぐらぬ城守し
各日職と之所を其書合人をもつ
は其儀をうらうらひし御さば中一と

結核を讀くは事とてわらひあつてもその
さうりいふと天少をば笑たぐらぬ海お果ん
の母妻といはふ志は教ひまうせむ事す
は報すといふはまゝの世に然しふ家の若
たは又菟城して運と三宮ありて其天
守し昭夜原を主政たぐらぐらぬ城守し
各日職と之所を其書合人をもつ
は其儀をうらうらひし御さば中一と

天正六年
正月七日
中津寺十右衛門

行くも事なきに思ふもなきに思ふ
つゝもなきに思ふもなきに思ふ

秀和赤穂とて京都に罷立作妻方へ来り已ノ

四月十日之状

ふもなきに思ふもなきに思ふ

ふもなきに思ふもなきに思ふ
つゝもなきに思ふもなきに思ふ
つゝもなきに思ふもなきに思ふ
つゝもなきに思ふもなきに思ふ
つゝもなきに思ふもなきに思ふ
つゝもなきに思ふもなきに思ふ
つゝもなきに思ふもなきに思ふ
つゝもなきに思ふもなきに思ふ
つゝもなきに思ふもなきに思ふ
つゝもなきに思ふもなきに思ふ

今更に此の事を知るに
縁なき事なり

一、此の事を知るに
縁なき事なり
今更に此の事を知るに
縁なき事なり

一、此の事を知るに
縁なき事なり
今更に此の事を知るに
縁なき事なり